

令和8年度

事業計画書

令和8年4月1日から
令和9年3月31日まで

公益財団法人 太田記念美術館

I 公益目的事業

1. 浮世絵に関する展覧会の企画

太田記念美術館において下記のとおり 6 つの展覧会を開催する。

ファミリー層の集客が見込める展覧会から学術的に重要な展覧会に至るまで幅広いラインナップで、入館者数の目標を 80,000 名とする。

① 歌川広重「名所江戸百景」 最後の挑戦

前期：令和 8 年 4 月 15 日～5 月 10 日 後期：令和 8 年 5 月 15 日～6 月 14 日

開催日数：50 日間

入館料：一般 1,200 円、大高生 800 円、中学生（15 歳）以下無料

歌川広重の最晩年の代表作「名所江戸百景」全 120 図を、前期後期に分けて約 8 年ぶりに公開する。奇抜な構図や新たな名所の選択など、絵師としていかにして最後の大作に挑んだのかを読み解く。

② アニマル&モンスター かわいい・怖い・ちょっと変

前期：令和 8 年 6 月 23 日～7 月 20 日 後期：令和 8 年 7 月 25 日～8 月 23 日

開催日数：51 日間

入館料：一般 1,200 円、大高生 800 円、中学生（15 歳）以下無料

心をなごませる可愛らしい動物から、背筋が寒くなるような妖怪、奇妙でユニークな存在まで、浮世絵に描かれた動物や妖怪、幽霊、怪異等を紹介することにより、浮世絵ならではの多彩なキャラクター表現に迫る。

③ 没後 50 年記念 鳥居言人 歌舞伎絵と新版画

令和 8 年 9 月 1 日～9 月 27 日

開催日数：24 日間

入館料：一般 1,200 円、大高生 800 円、中学生（15 歳）以下無料

鳥居言人は鳥居派八代目を継承し、歌舞伎絵を数多く手掛ける一方で、新版画においては繊細な美人画を描き、独自の境地を拓いた。その没後 50 年を記念して、肉筆画や版画など、画業の全貌を紹介する。

④ 葛飾応為「吉原格子先之図」 夜景の系譜

前期：令和 8 年 10 月 6 日～11 月 3 日 後期：令和 8 年 11 月 7 日～12 月 6 日

開催日数：51 日間

入館料：一般 1,200 円、大高生 800 円、中学生（15 歳）以下無料

吉原の夜の情景を描いた葛飾応為の代表作「吉原格子先之図」を 3 年ぶりに公開するとともに、夜景を描いた作品を幅広く紹介することで、浮世絵における夜の表現の変遷をたどる。

⑤ あなたの知らない浮世絵師たち

令和 8 年 12 月 12 日～令和 9 年 1 月 17 日（12 月 24 日～1 月 5 日は休館）

開催日数：21 日間

入館料：一般 1,000 円、大高生 700 円、中学生（15 歳）以下無料

水野廬朝、五郷、歌川国虎、蒔田俊親など、現在では無名の浮世絵師たちを取り上げる。
時代の変遷とともに埋もれてしまった絵師の、知られざる魅力を紹介することにより、
浮世絵の世界の奥深さを浮き彫りにする。

⑥ 遊廓の美術史

前期：令和 9 年 1 月 26 日～2 月 23 日 後期：令和 9 年 2 月 27 日～3 月 28 日

開催日数：51 日間

入館料：一般 1,200 円、大高生 800 円、中学生（15 歳）以下無料

華やかな世界として描かれてきた遊廓がいかに美化され、また、何が描かれなかったのかに目を向けながら、浮世絵が形作ってきた遊廓のイメージの歴史をたどる。

（開催予定日数は 248 日、展覧会名は仮称）

2. 浮世絵その他の美術品の収集、保存

- 1) 収蔵品の体系的、通史的なバランス、展示計画を考慮の上、新たな美術品の収集を行うとともに保全管理を的確に行い、必要に応じて補修を行う。
- 2) 浮世絵版画は光に弱く、展示により退色が進むため、作品の展示期間を厳正に管理する。また、温湿度管理、照度管理を厳格に行い、作品保護に努める。
- 3) 美術品目録と美術品現物との照合は通常 3 年毎に行っている。新型コロナウイルス感染症の影響およびスケジュールの都合上、しばらく延期としていたが、令和 8 年 1 月に照合を開始した。令和 8 年度も引き続き行う予定である。
- 4) 収蔵庫の生物被害対策は、開館以来、定期的に燻蒸作業を行ってきたが、従来使用していた燻蒸材の販売終了に伴い、令和 8 年度からは燻蒸材に頼らない文化財 IPM（総合的有害生物管理）の考え方に沿った対策を推進していく。収蔵庫および展示室等の昆虫生息調査を行い、その調査結果に基づき、収蔵庫の除塵防黴作業を適切に行い、良好な環境を維持することを目指す。

3. 浮世絵美術ならびに江戸文化の啓蒙普及活動

1) 講演会等の開催

①下記の講座の開催を予定している。

ア) 江戸文化講座

江戸の文化について、浮世絵にとどまらず多様な角度から捉えた講座を開催。

イ) 子ども浮世絵講座

小中学生とその保護者を対象に、浮世絵の摺りを体験するワークショップを開催。

ウ) 特別講座等

展覧会関連講演会、若手の浮世絵研究者による講演会等を開催。

②学芸員によるスライドトーク

展示作品への理解を深め、浮世絵をより身近に感じてもらうことを目的として、担当学芸員によるスライドトークを開催する。なお、展覧会の混雑状況および聴講希望者が定員を大幅に上回ることが予測された場合には、実際のスライドトークと同内容で制作した動画をリピート上映しこれに代える等、弾力的に対応する。

(会場の都合上、「没後 50 年記念 鳥居言人 歌舞伎絵と新版画」展と「遊廓の美術史」展は開催なし)

③日曜映写会

浮世絵の歴史、伝統文化を紹介する映像資料などの上映会を定期的に開催する。

2) 青少年への教育普及活動

青少年への教育普及活動の一環として、美術鑑賞の機会を幅広く提供するため、中学生(15 歳)以下の入場料を無料としている。

3) 年間パスポート制度

来館者へのサービスの向上および浮世絵美術の普及を目指し、「太田記念美術館年間パスポート」制度を引き続き実施する。

4) 館外協力

①教育機関への協力

学校等からの要望に応じて、学芸員による展示解説、講義等、美術鑑賞教育を行う。希望する教育機関と相談の上、可能な限りの対応とする。

②他機関への協力

ア) 作品貸出協力

当館の周知および浮世絵美術の普及を目指し、美術館、博物館等からの作品貸出の要請に対し、作品の状態や展示計画を考慮の上、可能な限り協力する。

イ) 写真資料貸出協力

美術館、博物館、大学等の研究機関への貸出を通じて芸術文化の振興に寄与する。

③調査研究依頼への協力

美術館、博物館、大学等の研究機関からの作品特別観覧の要請に対し、可能な限り協力する。

5) 生涯学習活動への対応

生涯学習センター等の民間組織、団体見学者等に対して、学芸員による展示解説、講義等、美術鑑賞教育を要望に応じて行う。

6) 広報活動

美術館および展覧会のPRを幅広く行い、浮世絵美術の普及広報に努める。

①マスメディア

- ・展覧会PR資料の送付、取材への積極的な対応、写真資料等の貸出など、展覧会および美術館の広報を行う。

- ・各展覧会において記者内覧会を予定している。担当学芸員が館内にて見どころや作品解説を行い、展覧会開催の効果的かつ幅広い周知を目指す。

②特別内覧会

以下の展覧会において、美術関係者を招待し、特別内覧会を行う。

- ・「没後 50 年記念 鳥居言人 歌舞伎絵と新版画」
- ・「遊廓の美術史」

③印刷物の作成・配布

展覧会のポスター・チラシ、講座等催事案内チラシ、年間展示案内、浮世絵研究助成募集チラシ（日本語・英語）などを作成し、館内にて掲示、配布するとともに、美術館、博物館、教育機関、公共機関等への配布を行い、展覧会、催事の周知に努める。

④ウェブサイト、ソーシャルメディアの運用

◇ウェブサイト

- ・利用案内、展覧会および講演会等の開催情報、浮世絵研究助成、さらに図録・研究紀要等の出版物についての情報を、美術館ウェブサイトにて提供する。

◇X（旧 Twitter）および Instagram

各プラットフォームの特性を活かし、以下の通り広報活動を展開していく。

- ・展覧会、催事等の情報を積極的に発信することにより、口コミによる集客力の向上および幅広い年齢層への認知度向上に努める。

- ・展示作品にとどまらず、季節や身近な話題に合わせた浮世絵を、収蔵品を中心に紹介し、浮世絵関心層の発掘に努める。

- ・他館の展覧会情報について日本美術を中心に告知し、美術館・博物館業界全体の普及活動に貢献する。

◇YouTube

展覧会スライドトーク等の動画を制作、発信し、展覧会の周知に努める。

◇note

メディアプラットフォーム「note」を活用し、浮世絵に関するコラムや展覧会紹介記事等を掲載することにより、浮世絵ファン層の拡大および美術館認知度向上に努める。また、来館が叶わなくとも展覧会を楽しむことができるよう、「オンライン展覧会」と銘打った有料記事を発信する。オンライン展覧会の具体的内容は「5. 浮世絵等の資料収集・整備、調査研究および出版」に記載。

7) 他館との連携

- ①千葉市美術館と連携し、太田記念美術館年間パスポート会員・千葉市美術館友の会会員の相互割引サービスを引き続き行う。
- ②サントリー美術館と連携し、太田記念美術館年間パスポート会員・サントリー美術館メンバーズクラブ会員の相互割引サービスを引き続き行う。
- ③山種美術館と連携し、展覧会入場料相互割引サービスを引き続き行う。
- ④戸栗美術館と連携し、展覧会入場料相互割引サービスを引き続き行う。

8) 地域との連携

- ①東京都や他団体が行う観光事業等に協力し、芸術文化の拠点として地域の活性化に貢献する。
- ②複合文化施設「Bunkamura」が展開する PR プロジェクト「渋谷アート」に、連携施設として引き続き参加する。「渋谷アート」とは「渋谷」をテーマに渋谷を中心とする美術館・文化施設の魅力を発信することにより、地域の魅力向上やエリア集客等に貢献する活動であり、当館は令和6年8月から参加している。

9) ミュージアムグッズ等の製作・販売

- ①来館の記念となり、また、来館者が美術に親しみ、関心を深めるためのミュージアムグッズを製作、販売する。
近年では SNS の口コミ効果により、グッズ購入のために初めて来館するお客様が増加しており、当館オリジナルのミュージアムグッズを通して美術館の認知度向上、浮世絵ファン層の拡大に繋がる等、広報面においても重要な役割を担うようになってきている。引き続き、来館のきっかけとなる、魅力あるグッズの開発に注力する。
- ②復刻浮世絵版画および美術鑑賞の手助けとなるような関連書籍等の受託販売を行う。

4. 浮世絵研究者の育成および助成

1) 研究助成

内外の新進浮世絵研究者育成のため、毎年「浮世絵研究助成」の公募と選考を行っている。研究活動に対し助成を行うことにより、浮世絵の一層の普及・発展を通じて芸術文

化の振興に寄与することを目指している。

募集要項を記載したポスター（日本語・英語）を館内掲示のうえ、案内チラシを主要研究機関等に発送するとともに美術館ウェブサイト（日本語版・英語版）に募集要項を掲載し、広く募集を行う。

入選者の助成による研究成果に基づいた論文は『太田記念美術館紀要 浮世絵研究』に掲載する。

2) 若手浮世絵研究者の講演会開催

研究成果発表の機会を提供することにより、研究活動の支援ならびに研究者相互の交流を図るため、若手の浮世絵研究者による講演会を開催する。

5. 浮世絵等の資料収集・整備、調査研究および出版

1) 作品の調査研究

収蔵品および個人、団体所蔵の関連作品の調査研究を行い、その成果を展覧会、研究紀要等にて発信する。

2) 資料・図書の充実

①収蔵品の調査研究、図録制作のため写真撮影を行う。

②主要収蔵品のデジタルデータ化を進める。

③展覧会開催および調査研究に必要な図書資料等を収集する。

④新収蔵品について、美術品目録、作品カード等の整備を遅滞なく行う。

⑤立命館大学アトリサーチセンター（ARC）からの協力要請があった場合には、これに応じ、太田記念美術館の収蔵品データベース作成を引き続き行う。撮影およびデータベース作成費用、管理、運用全般は ARC が負う。データベースの公開範囲については、当面の間、当館職員、ARC 研究員に限定の予定。

3) 展覧会図録等の刊行

①以下の展覧会の開催にあわせ、図録を刊行する。

・「遊廓の美術史」

②以下の展覧会の開催にあわせ、ブックレットを刊行する。

・「アニマル&モンスター かわいい・怖い・ちょっと変」

・「葛飾応為「吉原格子先之図」 夜景の系譜」

③『太田記念美術館紀要 浮世絵研究』第 17 号を刊行する。

④『葛飾応為 鑑賞ガイドブック』の増刷をする（6 刷）。

⑤以下の展覧会の開催にあわせ、メディアプラットフォーム「note」を利用し、「オンライン展覧会」と銘打った有料記事を発信する。基本的に実際の展覧会に出品の作品画像および解説等を掲載し、記事の料金は美術館入館料の一般料金を基準に設定する。

- ・「歌川広重「名所江戸百景」 最後の挑戦」
- ・「アニマル&モンスター かわいい・怖い・ちょっと変」
- ・「あなたの知らない浮世絵師たち」

6. 美術館の運営

1) 改修工事

①4月1日から14日まで休館し、1階防煙防火ダンパー・ダクト改修工事および雨水管改修工事を行う。また、令和6年に更新工事を行った空調設備について、加湿・給水装置等の保守メンテナンス工事を行う。

②その他、老朽化した設備を中心に、必要に応じて改修工事を行う。

2) 保全管理

①来館者が安全、快適に過ごせるよう、施設および設備の保守点検を定期的に行い、良好な維持管理に努める。

②安全、快適な観覧環境の提供のため、団体見学の入館受け入れは、引き続き、事前予約制とする。また、混雑が予測される展覧会においてはその状況に応じ、土日祝日および展覧会最終週は団体見学を制限する等、来館日の分散を促す。

II 収益事業

1. 美術館建物の一部を店舗として賃貸する事業

公益目的事業に必要な財源を確保するため、美術館地下の一部を引き続き株式会社かまわぬに貸店舗として賃貸する。

以 上